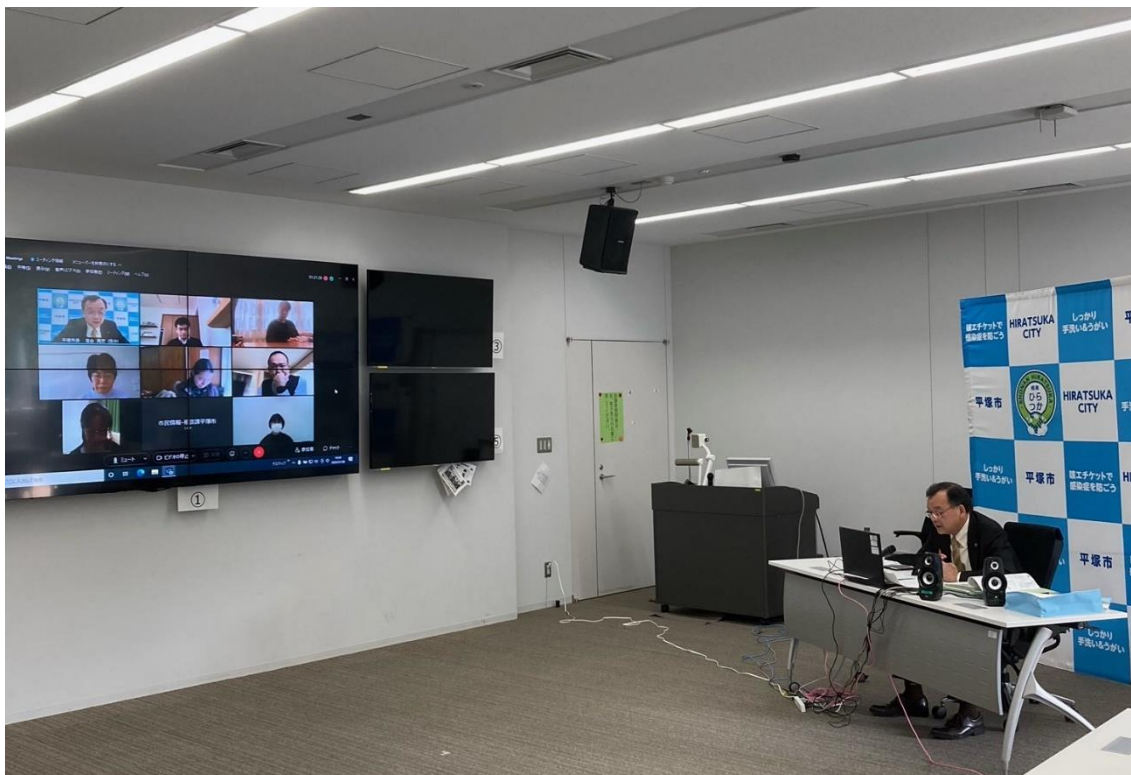


令和3年度 市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和4年（2022年）1月28日（金）
午前10時から11時30分まで
- 2 開催場所 オンライン会議
- 3 参加者 小学生の子がいる保護者 6人
- 4 テーマ もっと子育てしやすい平塚に



ほっとミーティングの様子

5 市長あいさつ

皆様こんにちは。平塚市長の落合克宏です。本日はお忙しい中、「市長と語りう！ほっとミーティング」に御参加いただき、ありがとうございます。また、既に2年にわたって新型コロナウイルス感染症により大変な御不便をされているなかでも、市政に御協力いただいていることに対し改めて感謝申し上げます。

さて、現在の第6波と言われる全国的な変異株の流行は、まだまだ収まる兆しがありません。本市も先週からまん延防止等重点措置の対象地域となりました。第6波では子どもに感染が広がったことが大きな特徴です。現在市内でもいくつかの小中学校や保育所で休校、休園の措置がとられています。本市としては皆様のいのちと健康を守るため、引き続き感染防止対策を徹底するとともに、3回目のワクチン接種と5歳から11歳までの子どもへのワクチン接種を迅速に進めていきたいと考えています。皆様におかれましても、引き続き感染対策の徹底をお願いします。

一方で、このコロナ禍における生活様式の変化は、新たなまちづくりを進めるうえで大きな転機となりました。本日のほっとミーティングのオンライン開催もその一つですし、GIGAスクール構想やテレワーク、キャッシュレス決済などデジタル化を推進しています。今後もポストコロナを見据えたまちづくりを様々な分野で積極的に進めていきます。

さて、本日のテーマである「子育てしやすい平塚に」に関連してうれしいニュースがありました。不動産情報サービス会社の「人気の駅ランキング神奈川編」において、平塚駅が総合部門4位、ファミリー部門で2位に選ばれました。都心から近く自然豊かで温暖な環境と、小児医療費助成の所得制限撤廃など子育て関連施策が、子育て世代の方から評価していただいていると考えています。

本日は皆様から平塚市をもっと住みやすく、子育てしやすいまちにするための御意見をお聞きできることを楽しみにしています。ぜひ率直な御意見をよろしくをお願いします。

6 主なミーティングの内容

【司会】

まず皆様に自己紹介と本日お話ししたいテーマについてお話ししていただきたいと思います。

【参加者A】

小学校3年生と2歳と0歳の子育てをしています。私は昨年4月に埼玉県から平塚に来て、とても子育てしやすいまちだと感じています。もっとこう

だったら良いのにと感じることもあるので、本日参加しました。よろしくお願
いします。

【参加者B】

富士見地区で小学校1年の子育てをしています。今日は小学生の放課後の
居場所づくりについてお話ししたいと思っています。コロナ禍において子ど
もが安心して過ごせる居場所づくりが必要と感じています。

【参加者C】

金田地区で小学校2年と年中、2歳の3人の子育てをしています。子どもが
小学生になるといじめや不登校の事例を耳にすることがあります。来年度、金
田小学校PTA会長を務める予定なので、行政や他の地域と何か協力できる
ことがあればと思って参加しました。

【参加者D】

小学校3年の医療的ケア児の子育てをしています。教育現場での医療的ケ
ア児へのサポートが不足していると感じているので、ぜひ充実していただき
たいと思い参加しました。

【参加者E】

小学校2年の医療的ケア児と年中の2人の子育てをしています。私も医療
的ケア児へのサポートの充実についてお話ししたいと思います。

【参加者F】

中学校3年と小学校6年の2人をシングルマザーとして子育てをしていま
す。自分が母子家庭となって実感したことなど、父子、母子家庭の現状につ
いてお話ししたいと思います。

【司会】

まずは、子どもの居場所づくりについて意見交換をしたいと思います。どな
たか追加の御意見などありますか。

【参加者A】

以前の住んでいた埼玉には、大人が見守りながら子どもが自由に遊べるプ
レーパークがありました。世代間交流の場所にもなっていて平塚にもあつた
ら良いと感じています。

【参加者B】

我が子は小学校1年のため、一人で行ける範囲は校庭か公園程度です。子ど
もの家が全地区にあれば一番良いのですが、あまり現実的ではないと思
うので、既存の公民館などで安心して遊べる居場所づくりができないかと考
えています。そのためには大人が負担感なく続けられるような見守りネット
ワークを構築する必要があるのかなと思います。

【参加者C】

私は平塚在勤のため、見守りの協力などやりたいなと思っても、何から始めて良いのか分からず実現できていません。他の地域では「寺小屋」などの様々な活動をしているようなので、参考にしながら協力していきたいです。

【市長】

皆様が日頃お仕事をされながら、子育てをされていることを大変ありがたいと感じています。私は「子どもは社会の宝」であるため、社会全体で子育てを支えていくことが大切だと考えています。子どもが安心して遊べる場所として、子どもの家が市内に4館あります。また、八幡小学校と港小学校では余裕教室等を活用して放課後子ども教室を実施しています。地域の方に協力していただく事業のため、担い手確保に課題はありますが、より多くの地区でできるように取り組んでいきたいと考えています。他にも地域の支えあいの仕組みとして、町内福祉村が市内18カ所にあります。その中では子どもの学習支援をしている地区もあります。

また御紹介のあったプレーパークのような場所は、本市では平塚市総合公園が担っていると考えています。昨年にはトイレを改修してきれいで使いやすくなりました。さらに今年度には、障がいの有無に関わらず御利用いただけるインクルーシブ遊具の設置や、カピバラの公開に向けて準備を進めるなど、魅力化を図っています。

市の取組や地域における活動を皆様が活用してもらえるように、情報発信をしっかりと行っていきたいと思っています。

【司会】

別の視点からお気づきの点や御意見ありますか。

【参加者F】

私はシングルマザーですが、できる限り子どもといる時間を取れるようにしていましたが、元配偶者とは交流がないので、近所の大人やお兄ちゃんお姉ちゃんが一緒に遊んでくれる環境は理想的だと感じています。

【参加者C】

私が以前住んでいた地区でも子育てサークルがありました。妻は初めて参加した際には馴染めなかったようですが、何度か通ううちに徐々に慣れて、転居後の現在でも繋がりを保っています。初めて参加した人を受け入れやすくする環境も大事だと思います。

【参加者B】

市や地域の様々な取組は、自分で積極的に探してみるといろいろとあることを知ることができますが、まだ知らない家庭もあるように感じています。つい先日も子どもが放課後の校庭開放がないため、近くの公園に友達を誘ったところ、親から「公園はどんな大人がいるか分からないから、行ってはいけな

い」と言われたそうです。私は地域の方が見守りをしてくれていることを知っていたので、特に不安はないのですが、おそらく見守り活動を知らない保護者は不安に思うのだなと感じました。良い取組は既に沢山実施されているので、学校等を通じてもっと周知されるといいなと思います。

【司会】

次に障がいのあるのお子様がいる家庭への支援について移りたいと思います。お二人からもう少し詳しく現状等についてお話していただきたいと思います。

【参加者D】

医療的ケア児に対する専門性をもった教員の配置と医療サポートの充実をお願いしたいと思います。小学校入学に当たり、こども発達支援室くれよんと子ども教育相談センターと何度も面談を行い、介助者の配置を約束していただいていたものの、予算等の都合なのか、十分なサポートを受けられず入学後1年は親の付き添いを頻繁に求められていました。期待をもたせるだけの約束ではなく、実現の見通し等をしっかり説明して、最大限の努力はするが、十分なサポートを提供できない場合もあることは事前に教えてほしかったと思います。

【参加者E】

平塚市の場合、放課後デイサービスは、障がいの軽重は関係なく親の就労状況により決定され、週2日支給です。近隣では障がいが重い場合は、親が働いていなくても週3～5日支給される市町が多いです。また、そもそも放課後デイサービスの事業所が絶対的に不足しています。デイサービスであるにもかかわらず保護者付き添いが受け入れ条件になっていることもあるようです。現状については担当者には何度も訴えています、なかなか改善されないのが現状です

【参加者D】

私も先ほどお話しした経験から職員・市役所の意識改革が必要だと感じています。個人を決められた運用に当てはめるのではなく、その個人にとって何が最も適切な支援か、制度上の課題があるのであれば上層部に掛け合い、制度や運用方法を柔軟に変更できる人材育成が必要だと感じました。また、組織としても医療的ケア児が進学することを想定して、小学校や中学校に入学した場合に課題となる点を、先手先手で解決しておいてほしいと感じています。

【参加者B】

私にも重度障がいのある子を育てている知人がいます。現在は遠方で生活しており、今後地元である平塚に戻りたいと考えているようですが、平塚市のサポート体制を心配していました。平塚には市民病院という素晴らしい総合

病院があるので、医療面でも連携しながら適切な支援が行われるように期待しています。

【市長】

まず当初、介助者の配置をお約束していながら、十分なサポートができなかった点については、市の代表として私からもお詫び申し上げます。本市では以前は介助員を配置していましたが、より充実した医療的ケアを行うため学校看護師を配置することになりました。その過渡期に御迷惑をお掛けしてしまい申し訳ございませんでした。

放課後デイサービスについて、事業所が不足している現状は承知していますので、引き続き事業所が増えるようお願いしていかなければいけないと考えています。また、成長過程や進路選択において、専門的知識をもって適切な支援ができる人材育成や体制作りも、しっかり進めていきたいと思えます。

昨年「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されました。その目的は医療的ケア児の健やかな成長と家族の離職防止などとされています。また自治体の責務についても定められていますので、本市としても法の理念に沿った施策に取り組んでいきます。

【参加者E】

平成30年から医療的ケア児分科会が開催され、くれよんスタッフと定期的に意見交換を行っていますが、現状や要望が上層部に伝わっていないと感じることがあります。ぜひ時間がありましたら市長に御参加いただきたいと思っています。

【司会】

市長には御都合を調整していただければと思います。また近隣市町と放課後デイサービスの支給量に差がある点について、市長からコメントはございますか。

【市長】

先ほど、他市町と支給量に差があることを御説明いただき、本市の場合では、保護者の就労状況は考慮され、障がいの軽重は考慮されないと御指摘をいただきました。私自身もその子にとって最良のサービスが受けられないのかと感じます。先ほどの事業所不足が理由となっているのかなど、担当課に確認させていただきたいと思えます。

担当課補足

本市の障害児通所支援給付決定基準では、放課後等デイサービスの1月当たりの支給量を小学生では10日（週2日）以内と定めています。ただし、保護者の就労や家庭の事情等に応じて、保護者、関係機関等との協議により必要と判断する場合は、基本支給量を超えるサービスを支給しています。

市町村によって基本支給量は異なりますが、これは対象児童数や通所事業所の充足度等が異なっていることも理由の一つであると考えます。本市ではサービス利用量と事業所の受入れ状況等を考慮しながら、必要とするお子様が利用できない状況に陥らないように、現在の基本支給量を設定しております。

また、本市を含め近隣市町でも、障がいの程度のみによる支給決定基準は設定しておらず、障がいの程度を含む家庭の状況等を総合的に判断し、支給量を決定しています。

【司会】

最後に皆様から市長へお伝えしたいことや本日の感想をいただきたいと思
います。

【参加者A】

子育て環境に魅力を感じて平塚に引っ越してきました。実際に住んでみて
市内でも子育て環境に差があることを感じました。市内での地域格差が無く、
市内どこでも子育てしやすいまちになってもらいたいです。

【参加者F】

親の事情でひとり親家庭となった子どもは、少なからず心に傷を負ってい
ると思います。どんな子どもも差別なく暮らしていける社会であってほしい
と思います。

【参加者E】

直接市長とお話しできて良かったです。私がこれまで8年間医療的ケア児
を育てて感じたレポートを市長への手紙としてお送りしますので、ぜひ読ん
でいただきたいです。

【参加者D】

市長と直接お話しできる機会があることを今回初めて知り、大変良い企画
だと思っています。またぜひ参加したいので、情報が届くよう様々な方法で発
信していただきたいと思
います。また繰り返しになりますが、市民の声がしっ
かり上層部まで届くような組織であってほしいと思
います。

【参加者B】

今年度コロナ禍で小学校に入学したためPTAや子ども会の活動もなく、
地域で子育てについて話す機会がありませんでした。子育て環境では、市単位
だと広すぎてしまうので、小学校区程度の単位で地域資源を活用して安心で
きる居場所づくりをしていきたいと思
いました。

【参加者C】

市長には真摯に御対応いただきありがとうございました。市長、司会者また
参加者の皆様が平塚をもっと良くしたいと活動されていることに共感すると
ともに刺激を受けました。来年度PTA会長として私もがんばって活動して

いきたいと思います。

7 市長によるまとめ

本日は皆様から率直な御意見を多くいただき、ありがとうございました。日々お仕事や子育ての中で、お困り事について、市長が全てを把握することは難しく、本日この場で具体的な改善をお約束できないことは恐縮ですが、誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。

本市が様々な機会で使用している「手をつなぎたくなるまち平塚」のロゴは御存じでしょうか。これは平塚の強みである人の温かみ、人と人との繋がり、地域の絆などを大事にしたいとの思いを込めて作成しました。

皆様にとって安心して暮らしやすく、住んでいて良かったとだけ思っただけのまちづくりを進めることが私の役割ですので、風通しの良い組織づくりも含めて市政に取り組んでいきたいと思います。本日はありがとうございました。

以 上